



かほく防災記者 1・2期生レポート

宮城県大河原中3年 鈴木慎人さん

対策学び 防災士に合格



鈴木慎人さん

毎年のように起きる自然災害と防災対策について学ぼうと思ひ、東北福祉大で防災士養成研修講座を受講し、試験に合格した。防災士資格を登録するには、救急救命講習も修了する必要がある。今年1月28日に角田市民センターで受けた講習について報告する。

要救助者を発見した場合、①周囲の安全と協力者の有無を確認する②協力者がいる場合、救急車の要請と自動体外式除細動器(AED)の用意を指示する③救急車かAEDが到着するまで胸骨圧迫を続ける―という対応が求められる。突然、誰かが倒れたら、パニックにならずに救急車を呼べるだろうか。119番にかけると担当者が必要な手順を教えてください。

胸骨圧迫30回、人工呼吸2回を5セットずつ体験した。数分で全身汗だくになった。救急車の到着まで、協力者がいたら交代で行うと良いらしい。意識が戻った場合は、嘔吐物で気道がふさがらないよう、横向きにしなさいといけな。体を倒す側の腕を横に出し、片膝を立ててから体を回転させると、無理なく横向きにできる。

防災士講習は2日かけて地震や津波、風水害、ハザードマップと避難、自主防災活動と地区防災計画、行政の災害対策などを学習した。避難所設営シミュレーションでは、お年寄りや障害のある人、乳幼児のいる家族には、さまざまな配慮が必要だと知った。救急救命講習と防災士研修講座の知識や体験を生かし、いざというときは自分の身を守り、周りの人も助けられるようになりたい。



胸骨圧迫に挑戦(ちょうせん)。体力を使うので協力者がいたら交代で行う必要があると感じた

小さな体で大きく貢献 日本48年ぶり自力五輪

バスケット男子・河村選手



W杯・順位決定リーグのカボベルデ戦でシュートを放つ河村選手(中央)＝9月2日、沖縄アリーナ

「身長ハンデあってもできる」

バスケットボール男子日本代表が9月、ワールドカップ(W杯)で来年のパリ五輪出場を決めました。予選を勝ちぬいての出場は何と48年ぶり。チーム最年少22歳の河村勇輝選手が大きく貢献しました。身長200センチを超える選手もいるバスケットの世界。172センチながら活躍する河村選手は一人倍の努力をしてきました。河村選手はコートに入るとき、深くおじぎをします。「こ

バスケットを本格的に始めたのは小学2年生の時。それまでは野球が好きでしたが、スポーツ店で見かけたユニホームが格好良くてバスケットをすることに決めたそうです。それからは夜のシュート練習が日課となりました。中学校の先生だったお父さんの吉一さんが家の庭に置いてくれたゴールにシュートを打ち続け、小学5、6年生のころに